



『県伊祭 サイエンスショー、チャリティバザー実施、アンケート報告』

6月13日(土)に開催された県伊祭では、GLiS 類型の有志生徒が「サイエンスショー」と「チャリティバザー」を企画・運営しました。多くの来場者にご参加いただき、地域の方々と交流しながら活動を行うことができました。イベント終了後には、参加した生徒を対象にアンケートを実施し、準備段階や当日の運営について振り返りを行いました。今回の活動を通して感じた課題や成果を整理し、次回の活動へ生かしていくことが目的です。

Q,準備段階について 準備中に「もっとこうすればよかった」「ここが大変だった」と思うことは何ですか？

『チャリティバザー』

- ・値段設定 ・売るものを集めること
- ・第一回の仕分け作業の際、有志メンバーだったため、集まったメンバーに現状ややるべきことを具体的に伝えるのが難しく、同じような作業を繰り返してしまうことが発生したこと。
- ・もっと県高生とつながりたかった。物を集めるときに県高生にもっと興味を持ってもらえるような呼びかけが出来たんじゃないかなと思った。 等

『サイエンスショー』

- ・もっと、実験の際にどのような実験内容にするか下調べをし、この割合でできるのか仮説を立ててからやるべきだった。実験の時間が思ったよりもかかってしまったためである。
- ・大変だったと思うことはスライムの試作です。色んな試作品を作ってみんなの満足のいくスライムができてよかったと思います。
- ・準備中に本番に向けてのシミュレーションをして当日なにが大変かなに足りないかを確認しておけばよかった 等

『共通』

- ・告知ポスターをもう少し事前に作成し、もっと広く宣伝するべきだったと思う。

準備段階では「事前の計画性」と「情報共有」が大きな課題であったことが分かりました。特に、役割分担や進捗状況の共有、広報活動、試作品の検証などを早い段階から進めることの重要性が明らかになりました。一方で、何度も試作や話し合いを重ねることで、より良いものを作り上げることができたという意見も多く見られました。

Q,当日について 当日に発生したトラブルや、予想外に難しかったことは何ですか？

『チャリティバザー』

- ・「これはどんなもの？」と聞かれたときに、きちんとした対応をとることが出来なかったこと。 等

『サイエンスショー』

- ・バットの中にスライムが垂れてしまったときの対応を予測していなかった。
- ・裏で材料の分量を量っていたため、できるだけ速く分量を量りきるのが難しいと感じた。
- ・机の数が足りず、お客さんを待たせてしまうことが多かったことと、開始時間を書いていなかったの開店前にお客さんがたくさんきてしまったこと。 等

『共通』

- ・客寄せ ・小さい子が特に、どこまで自分たちで各バザーに呼び込んでいいのかの線引きが難しかった。スライムが満席になることが多く、機会ロスが生じていると感じた。
- ・人を集めるのが難しかった。県高生が沢山いるから県高生に興味を持って貰えるようなものにしたかった。一部の県高生は来てくれたから嬉しかったし地域のひととコミュニケーションも取れて楽しかったけど人を集めるのがいっばん難しかった。 等

当日は「運営方法」と「来場者への対応」が課題となったことが分かりました。体験ブースの回転率や客寄せ、待機列の整理、備品不足など、実際にイベントを運営して初めて気付く課題が多く挙げられました。一方で、多くの来場者と交流する中で、臨機応変な対応やコミュニケーションの大切さを学ぶことができたという意見も多くありました。



Q,次のステップ 7/18「みずほふれあい祭り」(サイエンスブース)に向けて 今回の反省を活かして、7/18に「絶対に改善すべきこと」や「もっと良くできる工夫」があれば具体的に教えてください。

- ・体験ブースを増やす ・科学のことをもっと分かりやすく、楽しく伝えること。子供の誘導。
- ・余裕をもってつくりたいため、分量を量る人を、二人ぐらいで行くと、スムーズに進むと思う。お客さんが少なかったら、一人でもできると思うため、そこは調整する必要がある。
- ・机の数を増やしたりするなど、ブースをもう少し確保すること。スライムの作り方について全員が説明できるようにすること。
- ・サイエンスバザーを体験してみて、生徒1人に対して2人以上対応することも可能かもしれないと感じた。3人以上の場合、机を囲むように置いて真ん中に生徒が入れば問題なく進行できると思う。学校では作っていた場所から手洗い場が少し遠かったため、ベタついた時の手拭きを用意してもいいと思う。
- ・頭の中ででもいいけれど実際にやってみたときになにが困るかを把握して対処の仕方考えた方がいいと思った。 等

改善点として①ブース配置の見直し、②役割分担の明確化、③小学生にも分かりやすい説明、④事前シミュレーションの実施、⑤待機列や誘導方法の改善、等が挙げられました。今回の経験を生かし、より良い運営を目指しましょう!!

Q,次のステップ 来年度の文化祭に向けて(バザー・サイエンス共通)

後輩たちに「これだけは伝えておきたいアドバイス」や、来年は変えた方が良くと思うルールはありますか？

- ・自分から積極的に参加する！ ・呼びかけをきちんとすること。
- ・茂みに隠れて見えにくい位置でチャリティーバザーが行われるので、客集めを工夫したほうがいい。体育館の出口の真横にあるのを生かして、舞台鑑賞を終えた人たちを呼び寄せるともっと売れるかも。
- ・呼びかけが大変だから対策したほうがいいかもです。あと、4つ100円のもので買いたいものが1つしかない時、1つで100円だと思いたいと思えないと言うお客さんがいたので対策したほうがいいかもです。
- ・できるだけ効率よく、進められるように考えておくとよいと思う。・来てくれたお客さんが楽しめるような工夫がもう少しいると思います。作ってくれているときの間のコミュニケーションを盛り上げることが必要だと思います。
- ・売り方をもっと考えたほうがいい ・何事も自分から人と触れる。もっと自分から話しかける
- ・トレーに材料を入れ、製作するときにラミネートされた取説などがスペース的にみやすいところに置きにくかった。説明する際に手で持って指差ししながら行かうか、クリアトレーを使って(取説を机に貼った状態)自分が見たいタイミングで見れるような工夫があってもいいかもしれない。
- ・拡声器の使用 ・同学年や他学年に興味を持ってもらえるようにしたら県高生ともつながりが増えると思う。 等

来年度の県伊祭に向けては、「主体的な行動」「広報・呼びかけの工夫」「来場者目線に立った企画・運営」の3点が重要であることが分かりました。来年も引き続き運営したい人は新1年生に伝えてあげられるようにしてくださいね。

Q,この企画に主体的に関わったことで、自分自身が「成長した」と感じることや、新しく学んだことは何ですか？
(・アンケート回答省略)

特に印象的だったのは、「自分から話しかけられるようになった」「仲間と協力することの大切さを実感した」「自分の考えを伝えられるようになった」という意見が多く見られたことです。地域の方々と関わりながら活動した経験を通して、生徒一人ひとりが主体性や協働する力、コミュニケーション力を高めることができたことがうかがえました。

今回のアンケートでは、多くの成果とともに、運営方法や広報、事前準備など、今後改善すべき点も明らかになりました。これらの振り返りを次回の活動に生かし、より充実した企画・運営につなげていきたいと考えています。今回の経験を糧に、生徒たちがさらに成長し、地域とのつながりを深めながら、より良い活動を創り上げてくれることを期待しています。